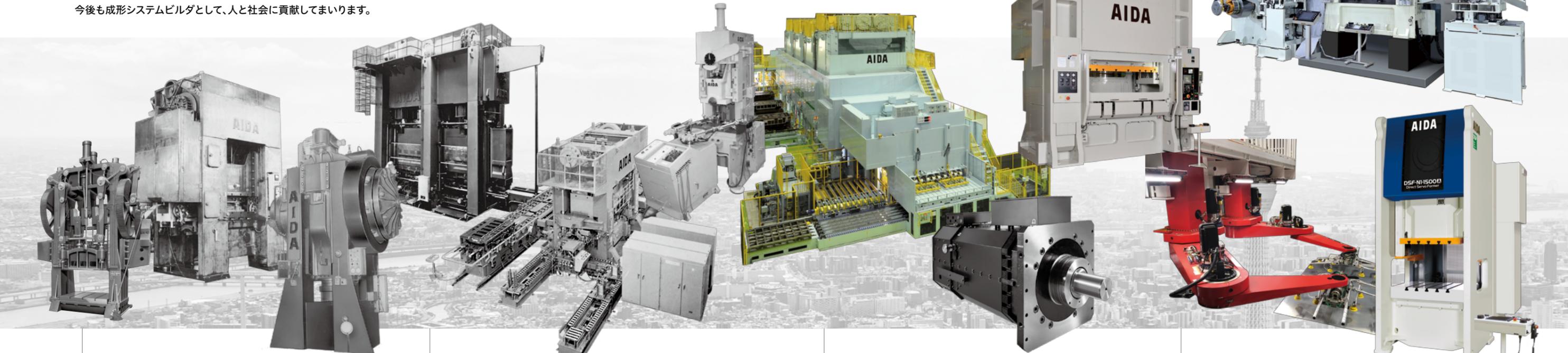


### 技術開発の歴史が繋ぐ未来

当社は100年以上にわたり、塑性加工に関わる成形システム分野のリーディングカンパニーとして、プレス機械をはじめとする各種成形システムの工法開発に取り組んでまいりました。時代とともに変化する社会課題に向き合い、独自の技術力で新しい価値創造に挑戦しながら成長し続けています。今後も成形システムビルダとして、人と社会に貢献してまいります。



## 1917-

### 創業・技術基盤の構築

創業者会田陽啓は創意工夫の精神と「欧米製品を凌ぐ世界トップレベルのプレス機械を自力でつくりだそう」という壮大な理念を持ち、会田鉄工所を創業。

プレス機械は輸入機が大きな割合を占めていた当時、数々の国産初のプレス機械を創出し、日本の技術水準向上と工業発展に寄与。

## 1933

国産第一号機 400トン トッグルドロ잉プレス  
自動車関連産業や家電産業等へ納品し、日本産業の発展に貢献

## 1953

500トン フォージングプレス  
国鉄(当時)に納入し、戦後の再建復興を支援

## 1956

200トン 高速自動プレス  
通産省の要請を受けて国産初の開発に成功  
大型プレスでありながらベッド、テーブル、フレームガイドのいずれも1.5~2mにつき0.02mm以内の平行度、真直度の高精度を実現  
日本精機学会明石賞受賞

## 1960-

### 技術革新、メカトロ時代

海外の先進技術の導入や生産設備の近代化・高度化により、強固な経営基盤を築く。また現地生産を視野においた海外戦略に取り組み、世界トップクラスの技術メーカーを目指す。

大型化、高速化、稼働率向上等の課題に対する解決手段を提供。日本の自動車関連業界、家電業界等の生産能力が著しく飛躍し、国際的な競争力強化に貢献。

## 1967

世界最大級(当時)の2,500トン トランスファープレス  
通産省の技術振興計画目標を大幅に上回る技術を創出  
9工程、ストローク数が毎分15回~26回にも及ぶ世界屈指の高速性を実現  
日刊工業新聞社主催第10回十大新製品賞受賞

## 1968

国産初の工業用ロボット「オートハンド」  
危険かつ単純作業を自動化・機械化する最先端技術を創出

## 1977

スタンピングセンタシステム マークIV  
デジタル制御搭載、世界初のプレス加工自動化システムを実現  
日本機械学会賞受賞

## 1990-

### 技術の高度化、真のグローバル企業へ

バブル崩壊による不況の厳しい情勢にあっても技術の高度化に取り組む。拠点の再編、統合、積極的な海外展開などを実施し、真のグローバル・カンパニーを目指し事業基盤を強化。

塑性加工技術の新たな歴史を刻んだ独自開発のサーボプレスや、金型精度より高い精度を実現する精密成形プレス等で画期的な生産技術を創出。

## 2002

世界初のダイレクト駆動式サーボプレス  
低速・高トルクでプレス加工に最適な大容量サーボモーターを独自開発  
自在なモーション制御でハイテン材やアルミ材等の成形難易度の高い素材に対応  
日刊工業新聞社主催第45回十大新製品賞受賞

## 2004

高精度加工を実現する精密成形機ULシリーズ  
高い剛性と動的精度によりプレス成形後の仕上げ工程なしで最終製品の形状を実現  
日刊工業新聞社主催第47回十大新製品賞受賞

## 2009

自動車ボディパネル用高速サーボタンデムライン  
世界最高水準(当時)の18spmを実現  
デザイン性の高い深絞り成形と高い生産性を両立  
素形材センター主催第25回素形材産業技術賞素形材センター会長賞受賞

## 2010-

### 社会課題の解決による成長企業へ

温暖化対策、脱炭素社会や生産現場のDX化等、新時代のニーズに応え続けるため、プレス機械を通じて社会課題の解決を実現。  
プレス機械のみならず、周辺装置も自社で開発生産することにより工場生産自動化・効率化にさらに貢献。新時代のニーズに対応する機種を生み出し、社会に貢献。

## 2016

プレス間搬送装置D-MAT  
搬送自由度が高く複雑形状のワークでも安定した搬送を実現  
ダイレクトサーボフォーマーDSF-N1-Aシリーズ  
プレス機械の重厚なイメージを払拭した新デザインで機械性能と意匠性を両立  
2017年度 グッドデザイン賞受賞

## 2023

EV駆動用モーターコア生産向け高速精密プレスライン  
業界トップクラスの生産性かつ最新のDX・AI技術を搭載  
日刊工業新聞社主催第66回十大新製品賞受賞